

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。本年も勿来高等学校をよろしく願っています。

初めに、読者の中にいらっしやる病院スタッフ等医療関係者の方々、そして保健所や臨床検査、消防機関に関係するの方々など、感染リスクのある苛酷な状況の中で全力を尽くして闘っていらっしやる皆さんに深く敬意と感謝の意を表します。

三学期始業以降、約一週間が経ちました。冬期休業中に帰省等で、普段とは違う接触パターンが伴っていたらどうかとの推測から、休み明け二週間を経過観察の指標としておりましたが、本校においては感染者等の発露なく経過することが出来ました。これもひとえに保護者の皆様がコロナ禍での健康管理と感染リスクを避ける生活規律を守っていただいたことによるものであり、あらためて感謝申し上げます。

東京都を初め緊急事態宣言に見られるように、コロナ禍は予断・油断を許さない状況にあります。様々な制限等に対応する教育を研究・実践しながらすすめて参りますので、今後とも変わらぬご厚情・ご支援をお願いいたします。

新制服デザイン決まる

明るい紺色、男女共通の胸のエンブレム、女子のセーラー襟とダブルの前合わせで、これまで地域の皆様から親しまれていた本校の制服ですが、来年度入学生から下段写真のようなデザインに変更

真のようなデザインに変更します。(大きい画像はORリンクより、本校HPをご覧ください。)

特徴は、シルバーをアク



高級感あふれる勿来シルバー

で意見を出し合い完成した自信作です。近日常には、モデルが着た状態の写真もアップできる予定です。

現在、モデル撮影のため貸し出し中ですが、撮影が終われば、マルトの衣料ファミリイ窪田店さんのスペースをお借りして、展示いたします。是非ご覧ください。



今、ここに勿来の学びが進化する...

伝統を継承、進化する新たなNakoso Style

県知事選挙?

本校で県知事選挙を行いました。とはいっても、2年生が行った模擬選挙です。

模擬とはいえ本格的です。選挙公報を読んだ生徒は、政見放送を見て、投票する候補者を選べます。投票所には、選管からお借りした本物のブースと投票箱を準備。生徒は少く緊張した面持ちで一票を投じていました。ちなみに私は、二十



歳で選挙権を得てから、すべての選挙で投票を行っています。投票皆勤賞です。投票皆勤賞のないのかしら。



「おばあちゃん、元気だったわねえ」チューニングボタンを押しながらママが呟く。「えーと、田舎だと周波数が違うから、あ、これこれ」ママが助手席に座り直すと同時に、聞き慣れた音が車内に響いた。今日は冬の歌特集。「スキー場でよく聞いたわ」ウルウルするママに、運転席から「俺、一緒にスキー行ったことないけど」って突っ込みが入る。

お正月は毎年おばあちゃんちで寝正月のはずだけれど、今年はちょっと違った。「ねえ、元朝参りに行きたいんだけど」私が言うのと、ママは目を丸くして「今まで『寒いからいや!』って一度も行ったことないじゃない、今日は大雪よ、熱でもある?」と言って、慌てて私の額に手を当てた。「やめてよ、就職も決まったし、無事卒業のお願いするの」「それなら、神様が分かり易いように『赤点なしにしてください』ってお願いしないとね」軽くディスプレイされた。

本当は私の卒業なんかどうでもいいのだ。拓哉の合格をお願いしたいだけ。拓哉は元々私と同じ地元就職希望だったけれど、難病と戦う医療スタッフの特番を見て、一念発起。数学が絶対間に合わないからと止める進路の先生を説得して、東京の医療系専門学校の受験を決めた。その入試が一月下旬にあるのだ。「拓哉の数学:」ママに言われたとおり、分かり易くお願いして合格祈願の小さなお守りを一つ頂いた。

始業式の朝、私はいつもより早く家を出た。拓哉は受験を決めたその日から、毎朝一時間早く登校して勉強している。今年一番最初に拓哉に会ってお守りを渡せたら願いが叶う、そんな気がして、学校まで急ぐ。

「おはよう、拓哉。」「おおお? 有紀早っ! 息切れてるし。」「ことしもよろしく!」よかった、拓哉一人だ。「ああ、よろしくな。で、なにごと?」「いや、今年遅刻ぎりぎりやめようかと思って、そう誤魔化して、鞆からお守りを取り出し

A HAPPY NEW YEAR 松任谷由実



制服の右のポケットでそっと握る。「そんなこと、毎日雪降るからよせて」軽く笑って、数学の問題を解き始める。「数学の調子どう?」「うくん」真剣な横顔。「拓哉、あのさ」右手に力がこもる。「ん? まって、この問題解き切るわ」「う、うん」二人だけの教室に鉛筆の走る音だけが響く。

「おはよう拓哉、ごめんごめん」紗英が駆け込んできた。「遅えぞ、勉強するんじゃないかったのか?」顔も上げずに拓哉が答える。「え、有紀じゃない、今年もよろしく! で、どうしたの」「よ、よろしくね、えっと:」「有紀は遅刻ぎりぎりやめるってさ、雪降るってえの、あれ、解説どこにしまったかな?」拓哉が鞆の中をこそこそ。

「紗英も早いね」ポケットから出しかけた右手を押し込んで尋ねた。「拓哉と一緒に私も勉強って思ってね。あ、そうそう」紗英が鞆から小さな紙袋を取り出した。近くの神社の名前が入っている。「拓哉と元朝参りに行って、それぞれ合格祈願のお守り頂いたの。そしたら拓哉が有紀のお守りも頂こうって言い出して」紗英の鞆に真新しいお守りが揺れる。「洒落で安産祈願にしようとしたら、紗英に叱られてさ。健康番長の有紀に身体堅固のお守りもどうかって思うんだけど」笑う拓哉の鞆に見慣れないお守りが揺れる。「色は三人同じにしたから、よかったら鞆につけて」「おそろいだぞ、絶対つけるよ」おそろいって色だけじゃん、小さく笑い、「うん、ありがとう」伸ばした右手でお守りを受け取った。

♪今年も沢山いいことが

♪あなたにあるように

♪いつもいつも

(作詞 松任谷由実「A HAPPY NEW YEAR」)
(つづく)

校長のしぶやめ

連載は、古典「伊勢物語」同様、本文が短くなるイメージだったのだけれど、歌に合わせて一話完結に近い構成なので、思いの外長い。想定甘かった(後の祭り)。

(本紙中のイラストは「しらべや」WEBよりお借りしています。)